

世界最高精度の全遺伝子発現解析技術

“未来へのバイオ技術”勉強会～テクニカルシリーズは、産学界等からご登壇いただき、製薬企業様やライフサイエンス関連企業様で使われる可能性のある次世代技術について、原理から応用例まで広くご紹介させていただいている。ユニークな技術であったり世界最高基準の技術についてご紹介いただく場として位置づけている。

遺伝子解析技術に関しては、JBAにも多くの声が寄せられており、今回の世界最高精度の全遺伝子発現解析技術については特に皆さまの関心が高いのではないかとと思われる。日本のバイオエコノミー戦略の推進を支える技術として是非、紹介させていただきたい。

開催日時：2022年7月29日（金）16時～17時30分

セミナー形式：Teams（定員120名、JBAwebページにて受付）

主催：（一財）バイオインダストリー協会（JBA）

企画協力：JBAバイオエンジニアリング研究会

協賛：日本生物工学会、日本オプトメカトロニクス協会 後援：日本農芸化学会

オーガナイザー：湯本 史明氏（Ginward Japan（株）代表取締役）

座長：林 洋平氏（理化学研究所 バイオリソース研究センター
iPS細胞高次特性解析開発チーム チームリーダー）

講師：團野 宏樹氏

（株式会社ナレッジパレット 共同創業者・CEO）

表題の技術は、理化学研究所にて、演者および顧問の二階堂・笹川らが開発した大規模トランスクリプトーム解析技術であり（Sasagawa, et al. 2018, 理研プレスリリース）、最大1細胞解像度で全遺伝子発現プロファイリングを可能とし、細胞のタイプや状態を高速・正確に診断することが可能である。

本技術は 13関連技術が比較された2020年の国際ベンチマーキング大会にて世界最高精度を有すると評価された、1細胞レベルの全遺伝子発現解析技術（Quartz-Seq2）を応用することで、細胞のトランスクリプトームを基点とした表現型創薬及び再生医療高品質化を行う共同研究サービスを提供している。

当技術の活用により、正確・高速・大規模にトランスクリプトーム情報を収集して構築したデータベース、人工知能技術、培養最適化技術を掛け合わせ、難病を克服する新薬・再生医療創出プラットフォームの構築を行っている。本講演では、その背景・基礎技術から最近の応用例までを紹介する。



Teams参加：無料、JBAホームページよりお申し込み下さい
締切：2022年7月28日（木）12時
お問合せ：（一財）バイオインダストリー協会
（担当：橋本、岸本、矢田）